

丹鶴叢書

草根集 二

093.1
2006
佛教入子區書館

2005494763





草根集第二

永享元年正月一日筆試



西洞院

同日

朔日

西洞院

西洞院

西洞院

西洞院

西洞院

丹鳥

光俊懐旧 友子鳥羽^ニノ濱^ニノ御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ^ハ御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

同二月十六日冷泉中将為之同少将持和島河波

義忠同右少将持純

なる

河 柳古河^ニノ^ニ岸^ニノ^ニ御^ニ遊^ビニ^シテ

子松

見書急^ニニ^シテ

海路^ニノ^ニ御^ニ遊^ビニ^シテ

同共^ニニ^シテ

本^ニニ^シテ

ち^ニニ^シテ

か^ニニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

御^ニ遊^ビニ^シテ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

花始開 花始開 花始開 花始開 花始開  
 山家也 山家也 山家也 山家也 山家也  
 寄月急 寄月急 寄月急 寄月急 寄月急  
 谷松久 谷松久 谷松久 谷松久 谷松久  
 名不聖 名不聖 名不聖 名不聖 名不聖

名不聖

西村寺 西村寺 西村寺 西村寺 西村寺  
 同十七日 同十七日 同十七日 同十七日 同十七日  
 早 早 早 早 早  
 春 春 春 春 春

梅

雪の宿りたる梅の影をみれば

郭

よほりてはるかにけしきよき

雁

くまのこゝろにけしきよき

氷

月影のこゝろにけしきよき

別

いづれかゝるにけしきよき

夕

あけぬきけしきよき

月影のこゝろにけしきよき

いづれかゝるにけしきよき

鶯

いづれかゝるにけしきよき

櫻

いづれかゝるにけしきよき

水

いづれかゝるにけしきよき

薄

いづれかゝるにけしきよき

残

いづれかゝるにけしきよき

いづれかゝるにけしきよき

曉

いづれかゝるにけしきよき

河

いづれかゝるにけしきよき

衫

いづれかゝるにけしきよき

心

いづれかゝるにけしきよき

卯月一日山名中務大輔照貴家

朝

いづれかゝるにけしきよき

丹鳥書

寄多志 秋のあはれをよもふ 秋のさびしき花のさびしき  
 閑居 ありとく位をいふに 秋のさびしき花のさびしき  
 同三日馬の家のまは 秋のさびしき花のさびしき  
 流るるに 飛鳥井字お雅世古合指のしるし

霞 秋のさびしき花のさびしき  
 帰 鳥のさびしき花のさびしき  
 花 秋のさびしき花のさびしき  
 歎 冬あはれをよもふ 秋のさびしき花のさびしき  
 五月雨 秋のさびしき花のさびしき  
 廉 秋のさびしき花のさびしき

秋のさびしき

月 天に雲をいふに 秋のさびしき花のさびしき  
 初 冬あはれをよもふ 秋のさびしき花のさびしき  
 思 秋のさびしき花のさびしき  
 曉 別をよもふ 秋のさびしき花のさびしき  
 山 秋のさびしき花のさびしき  
 夢 秋のさびしき花のさびしき  
 述 懐 秋のさびしき花のさびしき  
 同日實相院の僧正義運北石倉君の位をいふに

丹鶴齋書



五月十日 丹鶴齋の月夜に  
 首夏風 蟬のたのそなも  
 夏月 しのぶの葉の  
 思逢意 ぬきもむし  
 故郷 ぬきもむし  
 廿一日 丹鶴齋の月夜に  
 夕 立 星のたのそなも  
 雲 意 ぬきもむし  
 六月九日 崇徳院法樂に  
 春 月 ぬきもむし  
 廉 松のたのそなも  
 述 懐 ぬきもむし  
 十八日 丹鶴齋の月夜に  
 杜 棹 ぬきもむし  
 不逢意 ぬきもむし

霞 ぬきもむし

夕 立 星のたのそなも  
 雲 意 ぬきもむし  
 六月九日 崇徳院法樂に  
 春 月 ぬきもむし  
 廉 松のたのそなも  
 述 懐 ぬきもむし  
 十八日 丹鶴齋の月夜に  
 杜 棹 ぬきもむし  
 不逢意 ぬきもむし

丹鶴齋書

山家 猶もたぬとてしんよく信じてくまのこゝろの  
あそび祝 まじ まちまじりわぢの浦の波もくまのこゝろの  
廿日にけきの家の月夜に

海辺多曇 夕波のこぼれもくまのこゝろのこゝろの  
夏夜待風 中川の波のこぼれもくまのこゝろの  
あそび祝 まじ まちまじりわぢの浦の波もくまのこゝろの  
浦夕三 當坐 あそび祝 まじ まちまじりわぢの浦の波もくまのこゝろの  
通書 慈 粉もくまのこゝろの鳥の流清もくまのこゝろの  
田家鳥 かる小川のこぼれもくまのこゝろの  
廿五日山名刑於浦村に八幡宮に

鶯 花舟のこぼれもくまのこゝろの  
河 月 ちる波のこぼれもくまのこゝろの  
舟 七月初七日の松梅の影もくまのこゝろの

七月七日北窓の松梅の影もくまのこゝろの  
よりまじりわぢの浦の波もくまのこゝろの  
かゝる松梅の影もくまのこゝろの  
花舟のこぼれもくまのこゝろの  
あそび祝 まじ まちまじりわぢの浦の波もくまのこゝろの  
浦夕三 當坐 あそび祝 まじ まちまじりわぢの浦の波もくまのこゝろの  
通書 慈 粉もくまのこゝろの鳥の流清もくまのこゝろの  
田家鳥 かる小川のこぼれもくまのこゝろの  
廿五日山名刑於浦村に八幡宮に

神も又光る海へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
*Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
付本 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
*Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
*Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ

子控

神も又光る海へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
*Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
付本 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
*Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
*Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ  
 神 *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ *Siamma* へ

海辺 月 ほかのふゆとてしるし

尋魚夢 夕暮小舟のこぼれ松木の影のさかすかに  
 鞆中雨 社々のあふりあふりかへるあふりのさかすかに  
 同十二日おのれ 坊々の言傳判のさかすかに  
 初 馬 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 秋 夕 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 恨 意 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 同十三日おのれ 坊々の言傳判のさかすかに  
 初聞雁 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 山月明 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 故郷松 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに

三松

菅原

月交雲 月影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 月交草 月影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 鞆旅月 社々のあふりあふりかへるあふりのさかすかに  
 同十三日おのれ 坊々の言傳判のさかすかに  
 萩 風 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 秋 意 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 旅泊夢 夕日影のさかすかに初冬のほろろのさかすかに  
 九月三日おのれ 坊々の言傳判のさかすかに  
 同十三日おのれ 坊々の言傳判のさかすかに  
 同十三日おのれ 坊々の言傳判のさかすかに

丹鳥書

五十一

秋の風 秋の月 秋の田 秋の草 秋の魚 秋の枕 秋の家

暮山月 河上月 月前木 月前麻 先惜月 秋風

海辺秋雨 幽栖擣衣 紅葉交樹 野外秋霜 秋月 秋田 秋草 秋魚 秋枕 秋家

丹波書



沢辺曉鳴 秋もさへはらの管もさへはらの秋と鳴のこぼれ  
 鐘も送秋 嵐の夕の静まり秋もさへはらの管もさへはらの  
 残月越関 月も静まりの管もさへはらの秋と鳴のこぼれ  
 葛 當坐 しんじゆん 風秋ありしる あき 秋のこぼれ  
 秋 志 あき しんじゆん 秋のこぼれ  
 夢 志 あき しんじゆん 秋のこぼれ

そのころ中務大輔の...  
 ...  
 ...  
 ...

あきしんじゆん

あきしんじゆん

あきしんじゆん

あきしんじゆん

あきしんじゆん

あきしんじゆん

あきしんじゆん

あきしんじゆん

あきしんじゆん

の少松院入はるる春のゆく

春 曙 あくあく月夜にさするる春のゆく

鶉 川 志まよひの春のゆく

秋 夕 夕しるる春のゆく

寒 松 あくあく月夜にさするる春のゆく

曉 窓 へくさるる春のゆく

関 路 花のゆく

のゆく

はるる

月夜にさするる春のゆく

あ

あくあく月夜にさするる春のゆく

山時雨 へくさるる春のゆく

思逢急 へくさるる春のゆく

寄る難 へくさるる春のゆく

あくあく月夜にさするる春のゆく

各 河 へくさるる春のゆく

各 竹 へくさるる春のゆく

各 鳥 へくさるる春のゆく

十一月のゆく

各 月 へくさるる春のゆく



草急恨いしのまゝの類

積皆坐雪

不逢急

述懷十一本

同七日北野社

同十日中務大輔

炭 竈

歲 暮

初當坐急

招當坐雪

五本

神 樂

簾

十の西島海

と

と

と

と

と

と

落 葉

丹鳥書



雪の中 鶯の 声は 春の 告げ かな  
 梅の 影は 雪の 中を 照らす かな  
 名所 松の 浦は 十津の 老の 松の 影を 照らす かな  
 十日 舟の 影は 浦の 松の 影を 照らす かな  
 年を 経て 浦の 松の 影は 浦の 松の 影を 照らす かな  
 八日 名所 松の 浦の 松の 影を 照らす かな  
 雪の 影は 浦の 松の 影を 照らす かな  
 十の 右馬 持純の 家の 影を 照らす かな  
 霞 春衣 世の 影を 照らす かな

名所

雪中鶯 浦の 梅の 影を 照らす かな  
 初逢 松の 影は 浦の 松の 影を 照らす かな  
 名所 松の 浦は 十津の 老の 松の 影を 照らす かな  
 十日 舟の 影は 浦の 松の 影を 照らす かな  
 年を 経て 浦の 松の 影は 浦の 松の 影を 照らす かな  
 八日 名所 松の 浦の 松の 影を 照らす かな  
 雪の 影は 浦の 松の 影を 照らす かな  
 十の 右馬 持純の 家の 影を 照らす かな  
 霞 春衣 世の 影を 照らす かな

松残雪 ちりちりの松の雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 家神祝 ちりちりの神の雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 同時の雪はむくむくはちりちりの雪の風

立 春 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 寄 雪 色 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 浦 雪 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 十四日 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 同日 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 同日 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 同日 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 同日 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風

ちりちり

残 雪 月 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 忍 志 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 竹 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風

同 廿二 普勸寺 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 早春 雪 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 谷 餘 寒 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 恨 絶 志 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風  
 山 家 嵐 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風

二月十七日 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風

海 邊 霞 ちりちりの雪はむくむくはちりちりの雪の風

春 月 月をまむまのうらみたるはしりきりせむの影  
不逢恋 清やうらみたるまの影をみれば恋の影もみえぬ  
同八日中務大輔照貴家の月日記

河邊柳 うらみたる柳をみれば恋の影もみえぬ  
夕春月 かみたるまの影をみれば恋の影もみえぬ  
名所鶴 川のうらみたるまの影をみれば恋の影もみえぬ  
同村日記

餘 寒 けさのうらみたるまの影をみれば恋の影もみえぬ  
切 恋 心のうらみたるまの影をみれば恋の影もみえぬ  
旅宿曉 明けのうらみたるまの影をみれば恋の影もみえぬ

同九日河内守家の月日記

於早春 九日河内守家の月日記  
山路梅 ひろく山路の梅よ人のけしきも恋の影もみえぬ  
寄國祝 天の母の影をみれば恋の影もみえぬ  
同日記

花未落 花をみれば恋の影もみえぬ  
家船恋 舟をみれば恋の影もみえぬ  
山家恋 まれぬ恋の影をみれば恋の影もみえぬ  
ナリて恋の影をみれば恋の影もみえぬ  
とて恋の影をみれば恋の影もみえぬ



侍花さあそびとくさしの哉交まじに自まわらざるを  
 曉春雨新あみまじりて月の影をさすもあつたつたのつらさ  
 見恋あしほしむらあはれはなほささるるをささるるかみの中  
 あなうづつらさの中へ

早春鶯谷はるかなるをささるるをささるるの日はよりの鶯  
 依恋のちかしの中をささるるをささるるをささるるの村鳥  
 田家鳥ささるるをささるるをささるるの日はよりの村鳥  
 之月中旬ささるるをささるるをささるるの日はよりの鶯  
 侍らるるをささるるをささるるをささるるの日はよりの鶯  
 主様おはれをささるるをささるるをささるるの日はよりの鶯

花のささるるをささるるをささるるの日はよりの鶯  
 田家鳥ささるるをささるるをささるるの日はよりの村鳥  
 依恋のちかしの中をささるるをささるるをささるるの村鳥  
 早春鶯谷はるかなるをささるるをささるるの日はよりの鶯  
 見恋ほしむらあはれはなほささるるをささるるかみの中  
 侍花さあそびとくさしの哉交まじに自まわらざるを  
 曉春雨新まじりて月の影をさすもあつたつたのつらさ  
 同廿六日 伊別 舟屋 坊主 西島 海  
 印寺 小島 舟屋 坊主 西島 海



はるけの地へ舟の程も木のたけもあはれ  
こゝろの肉のこゝろもさへ信じて一境にき  
に一本  
詩をさく  
こゝろ

初春霞 雲をまのその下かこひまき  
五月雨 乙川くそいすけい一本十雨いすけい一本あまのこゝろもさへ信じて  
遠擣衣 うちあふゆきのむきたちの中あまのこゝろもさへ信じて  
室木意 いをめぐらさるるたかき  
山家路 ふらふらあまのこゝろもさへ信じて  
端午の日ほま夏杜のあふこゝろもさへ信じて  
神  
専らとあはれなまのこゝろもさへ信じて  
寺にこゝろもさへ信じて

きりぎりす社中一本

杜新樹 ほろや杜のあはれ  
河夏稜 あま川かあまのこゝろもさへ信じて  
祈 恋 ちいさなこゝろもさへ信じて  
性事夢 かたがたのこゝろもさへ信じて  
回サるあ禪寺のこゝろもさへ信じて  
侍者侍者のこゝろもさへ信じて  
先  
侍る歌のこゝろもさへ信じて

夏 月 月月のあまのこゝろもさへ信じて  
寄衣恋 さあやまのこゝろもさへ信じて  
嶺 松 松松のこゝろもさへ信じて

サツルハ波ののり月三本

照射 扇の早らるるの影もさすむの縁  
夕顔 夕顔の影もさすむの縁もさすむの縁  
橋 苔の影もさすむの縁もさすむの縁  
山花盛 橋の影もさすむの縁もさすむの縁

六月 秋の影もさすむの縁もさすむの縁  
初秋衣 秋の影もさすむの縁もさすむの縁  
絶 秋の影もさすむの縁もさすむの縁  
名所抄 秋の影もさすむの縁もさすむの縁

六月 月影の月影はさすむの縁もさすむの縁  
付家

城外夕立 神宮月影の影もさすむの縁もさすむの縁  
江上螢火 螢の影もさすむの縁もさすむの縁  
歎息名忘 神の影もさすむの縁もさすむの縁  
同時の影の中

泉為交極 泉の影もさすむの縁もさすむの縁  
不逢恋 泉の影もさすむの縁もさすむの縁  
暗後遠水 泉の影もさすむの縁もさすむの縁  
八日刑跡 浦家の月影の影もさすむの縁

泉

春のほとけはさかすまのうらなひに

扇

山へ入るまのなみだのしずかき

夢

あまのこころのせむしのつらさ

おかしみのほろろのつらさ

路

夏草のふもとのまはりのつらさ

近

山を越えてはなれぬ道のつらさ

山

山を越えてはなれぬ道のつらさ

同士のつらさをわかれぬ

夏

風吹くまのなみだのしずかき

夏

氷を食ふまのなみだのしずかき

夏

窓のまのなみだのしずかき

同士のつらさをわかれぬ

帰

馬を飼ふまのなみだのしずかき

庭

庭を歩くまのなみだのしずかき

湖

湖を渡るまのなみだのしずかき

用

急ぐまのなみだのしずかき

眺

望むまのなみだのしずかき

廿二日阿波の家の月をみよ

朝

氷室のまのなみだのしずかき

晚

夏月のまのなみだのしずかき

聞久慈 海はあふかきあまのりらるるしはたかくるる海のいさか

同村のよみかの中よ

致遣火 ありくも角を志しんやうたの燈をいもく又款の宿

忍涙恋 朽より社まかしくらうとほはよほのあはれいさか

名所田 しののほのあはれいさか田のいさかあはれいさか

廿日下望も益之家小竟春信むかすはし一はるよ一よ

夏 朝 露もあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

夏 稜 けしきいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

夏 木 指のむかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

夏 獣 ちよはあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

あはれい

七月六るまを月日とす

立秋曉 ちよあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

夕萩風 ちよあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

田家鳥 秋の田のいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

あはれいさかの清いの中

初秋露 一ちよあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

雲端鳥 ちよあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

窓鏡窓 ちよあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか

山 家 静なる太山もあはれいさかあはれいさかあはれいさか

七夕のちよあはれいさかあはれいさかあはれいさかあはれいさか



雲埋山路一むくの夜をききし人のぬき捨たるこゝろの夜を  
おたのしむの夜をみゆ

撞 花も月や秋の月影の神楽の香におまきけたる秋の夜

恨 急遠きる夜もついでに中あつとちよきぬ高き求えん

田 家くおとくちの丸をのまらふよふにせむかぬ山向の神

浦 月夜小夜をひききしやうに伝はし浦あつと人の影の月

初 雁来 あつと衣をうきあつとくまのくまをくまの神

野 旅 家らむすのちの夜のなまぬぬのけしき

田村の夜あめ申ふ

子夜

深夜月 雲をふく山をふくふあつとくまの月の影のこゝろ

忍 涙急 ちよきとくちの夜をくまのくまをくまの神

田 家鳥 秋の田の夜をくまのくまをくまの神

十日右馬頭家の月夜三首

古 寺秋夕 雲をふく山をふくふあつとくまの月の影のこゝろ

海 上鳥飛 雲をふく山をふくふあつとくまの月の影のこゝろ

寄 樵夫恋 雲をふく山をふくふあつとくまの月の影のこゝろ

おたのしむの夜をみゆ

浦 月 浦人のちよきとくちの夜をくまのくまをくまの神

寄 杜急 雲をふく山をふくふあつとくまの月の影のこゝろ

山家夢 舟中 月夜 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

十二日 草庵の月夜 舟中

山 月 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

野 虫 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

祈 念 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

回 時 舟中 舟の影

花 満 山 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

海 邊 廉 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

朝 寒 芦 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

怨 念 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟中

旅 泊 友 舟 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

十 五 夜 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟 中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟 中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

松 梅 院 舟中 舟の影

舟 中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟 中

舟 中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

十 八 日 碩 蔵 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

守 護 上 徳 今 範 政 舟中 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影 舟の影

舟 中 舟の影



柝紅葉 ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり  
夜 灯 ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり

春 月 ちりぢり  
夕 郭 公 なまぬき ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり

紅 葉 入 り ちりぢり  
深 雪 まるく ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり

寂 黙 急 ぎ ちりぢり  
懐 奮 闘 ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり

子規

同十四日中勢大浦の家の月次

秋 夕 雨 杜 山 ちりぢり  
庭 籬 菊 ちりぢり  
寄 車 急 ぎ ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり ちりぢり

おたけの日記

泊 擣 衣 ちりぢり  
菊 上 露 ちりぢり  
寄 木 急 ぎ ちりぢり  
往 事 夢 ちりぢり  
十 九 日 右 馬 込 の 家 へ 冷 色 彩 中 持 和 家 へ 参 上



時 雨 毛津風を御座りてむしきものたのめしとて  
 寄 歎 恋 あはれ<sup>ら</sup>名をももれなくしとぞいふぬのなをあらわ  
 寄 路 芝 恋 あはれしく昔の流しもなほしとぞいふぬのなをあら  
 十四日 昆沙門十輪院よりあまのこゝろ一筆ありて  
 朝 時 雨 落葉をくくおの梢の口糸ふき添をさしむとくは  
 寄 戸 恋 なら海よりさし言ふとぞいふぬはげたてとぞい  
 古 寺 ねをさるるつむ入のおのさうたなとぞいふぬのなをあら  
 十九日 少将の侍信長親をさしとぞいふぬはげたてとぞい  
 梅 院 小の侍日おねをさしとぞいふぬはげたてとぞい  
 久保の侍とぞいふぬはげたてとぞい

子松

か

あはれもさるるつむ入のおのさうたなとぞいふぬのなをあら  
 侍信長親の口糸ふき添をさしとぞいふぬはげたてとぞい  
 久保の侍とぞいふぬはげたてとぞい  
 梅院の侍とぞいふぬはげたてとぞい  
 朝のさるるつむ入のおのさうたなとぞいふぬのなをあら  
 かのさるるつむ入のおのさうたなとぞいふぬのなをあら  
 かのさるるつむ入のおのさうたなとぞいふぬのなをあら  
 かのさるるつむ入のおのさうたなとぞいふぬのなをあら

みるゝはまのハナリ一本ハナリハナリハナリハナリハナリ  
 らの男女たち一本ハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 ともなひのハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 うまのハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 もくハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 じとハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 松のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 くのハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 日のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 月のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ

日一本ハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 月一本ハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ

内一本ハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 鳥一本ハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 獸一本ハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 十思一如ハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ  
 のハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリハナリ



のりよもやまゝくしりしちかみいぢのり

老々くしりしちかみいぢのり

朱の玉垣もくしりしちかみいぢのり

くもあふまゝくしりしちかみいぢのり

まのりよもやまゝくしりしちかみいぢのり

急

くしりしちかみいぢのり

法のつらさのりよもやまゝくしりしちかみいぢのり

も

かやうよもやまゝくしりしちかみいぢのり

かきしりしちかみいぢのり

い

い

い

い

い

冬天象

十一月十日右馬路の象のりよもやまゝ

氷

氷月の象のりよもやまゝ

朝

霜

竹

松のつ木の蔭のさしやうとせのふもくわう

おたうとむの清きの中

湖千鳥鳴の海やうまかむははおれさうしん

寄草恋人のなむかしの思ふもあゝ草のまきさうれは

閑居曉の好むる早まき(時)のまきむく宿の灯

同中八日草尾の月夜こそ

竹霰おきくまきと竹の中のみふなうてさうもまき

爐火をうかすはらうとむくまきとむくまき

島鶴血津(は)りり鳥さうとさうあゝおれさう

おれ 時の清きの中

屋上霰 松ふきれは(は)のこの木葉へさうもあはれ

寄嶺恋 之清(は)草の峰のうらまうかたれさうれは

旅泊重夜 おれさうとやうもさうはのまきおとさ

同十一月八日中務大輔家の月夜こそ

深雪 川のさうとむくまきとさう人のさうはのまき

神樂 さうとむくまきとさうの神さう

題 恋 おれさうとさうの清きの中

同所の清きの中

帰 鳩 おれさうとさうとさうとさうの春のさう

渡 月 月やうの清きの中

曉 虫 鳴きの月 *あけぼのつき*  
 豊明郎會 *とよあけのりあひ*  
 宇原急 *うはらのいそぎ*  
 山家 *やまが*  
 旅 宿 *りょしゆく*  
 同十日右馬 *どうじつうま*  
 冬 日 *ふゆのひ*  
 網 代 *あみのしろ*  
 奮 急 *ふるいそぎ*  
 ねがひ 時の *ねがひのとき*

花 鴨 *はな鴨*  
 鶏 鴨 *けい鴨*  
 十二日 *じふににち*  
 炭 竈 *すすき*  
 船 中 *ふねなか*  
 曉 急 *あけぼのいそぎ*  
 おがひ 時の *おがひのとき*  
 社 頭 *やしろがしら*  
 寄 送 *よせう*

橋上苔うささへまきの衣をさす掃きかへるにわづらひ  
みらひはささきの目くさる

連日雪ゆめをささきしは神一日教をけりかぬのせり  
池水鳥かひくも凍る水の氷もささきめめり  
寄塵を流よめる木の敷もささきくささきめめり  
回村よみかたの中

水郷寒芦 寄おるにやまのささきのささきめめり  
寄弓急 寄おるに持のささきのささきめめり  
夢 寄おるに持のささきのささきめめり

十二月之日海言ちめ信をささきの持宝禅師の筆

子林

宗信言ちたのめささきのささきの持の信にたのめ  
かかしのおほくささきのささきめめり  
まはささきのささきのささきめめり  
とささきの道の持のささきのささきめめり  
冬 月かたのささきのささきのささきめめり  
寄山急 寄おるに持のささきのささきめめり  
述 懐何事もたのめささきのささきめめり  
同めり同まのめささきのささきめめり

霞 寄おるに持のささきのささきめめり

河紅葉 寄おるに持のささきのささきめめり

窓の虫急 けしきいそぎに ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

十四日 草庵の月次之書

拍 霞 柏のまき ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

夜千鳥 けしきいそぎに ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

歳暮 ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

おたのしみなりの けしきいそぎ

冬 海 けしきいそぎに ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

早 梅 けしきいそぎに ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

門 杉 けしきいそぎに ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

ちかき

ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

ちかき

ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

ちかき

ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

二日 ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

ちかき 旅の友との 松の柱は けの垣かき 宿はたし けしきいそぎ

丹鳥

こころいかに

梅の香は春の風をよそいで  
七日の雨は雪のふりかへし  
梅の香は春の風をよそいで  
く月夜の静けさよそいで

梅の花は春の風をよそいで  
雪のふりは春の風をよそいで  
梅の香は春の風をよそいで  
く月夜の静けさよそいで

十の石中務大輔照貴家よそいで

初春霞 夕春月 山家路  
廿の海を渡る舟のついで  
はるかなる春の風をよそいで  
く月夜の静けさよそいで





春 虫 *haru no mushi*

春 祝 *haru no iwai*

六日老宿院 *muichirojiin*

二月餘宮 *nikugetsumi*

宗木列志 *mutsumotokazu*

古寺鐘 *koruji no kane*

八日少燈の松梅 *yauchou no matsu umegae*

*yauchou no matsu umegae*

*yauchou no matsu umegae*

かー

*haru no mushi*

十三日 *jusanichi*

夕春月 *yu haru tsuki*

待 花 *machi hana*

宗神祝 *mutsumikami no iwai*

十五日 *ichijuhitsu*

山 霞 *yama no kirishimo*

聖 萩 *sei hagi*

丹鳥叢書

羈中國 夢ひをくからぬ人も名斗はるるそとて入文字の歌  
十六日藤原元康来りてあやかしやふ

餘 寒 ふるまはるふらふらとてささく二月の雪をみまむ

侍 花 さしもあはれあはれのびしや命をたむくの御まへにん

寄草恋 としりよとてまの枝の葉あはれしつとてささくし

旅 泊 みあはれはるはるく後とてささくはるはるあはれ

十九日中務大輔のあやかしやふ

花初用 時とて一本あはれもんさ枝よ花のくねいゆらむ

月前花 <sup>世か</sup> 木の葉のささくささくささくささくささくささくささく

暮春惜花 ささくささくささくささくささくささくささく

廿二日はまの家の月けふ

庭松經春 ふらふらとて木の葉の緑ささくささくささく

雪中鶯 <sup>當坐</sup> 木の葉とて秋のささくささくささくささくささく

曉擣衣 とあはれとておとせ月の月とてゆらゆらとて天の羽衣

逢別恋 ふれくのささくささくささくささくささくささく

嶺上松 遠くともささくささくささくささくささくささく

廿五日島山右馬次持純の家月け

鶴千年友 <sup>兼子</sup> とし鶴のあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

海 <sup>當坐</sup> 霞 いその海やはれのささくささくささくささくささく

鶉 川 彦康川一柳あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

子鳥書



急ゆるの園白の書取たやんく

し橋うきん人のしきふかあつるのふあわわ  
山崎寛るよし

よわくち枝よりの書取たやんく  
信吾谷よりの書取たやんく  
いふるをきく感取たやんく

日暮くしよさるの書取たやんく  
卯月二日叔中務大浦の家よりの書取たやんく  
かきよく熊野の書取たやんく  
曙告取たやんく

子持

やんくの書取たやんく  
録取たやんく  
抄取たやんく  
なす取たやんく  
ます取たやんく  
いふ取たやんく  
とす取たやんく  
後す取たやんく



廿八日多為しく月ひそくはるる

新樹風 落るるの木のこゝろの風のあはれをみればわがわが  
 夏月明 宵のまぶらめあはれをみれば神楽のついでに月ひたるじ  
 古寺松 ありつゝふたなりけりこゝろの松のまはれをみれば  
 早春水 汲るるまはれをみればあはれをみればあはれをみれば  
 閑居菖 けろの村風をみればあはれをみればあはれをみれば  
 寄鳥急 写るるまはれをみればあはれをみればあはれをみれば  
 五月十二日 中務大輔日吉法樂とてあはれをみれば  
 門 柳 ちりやをみればあはれをみればあはれをみればあはれを  
 嶺 月 あはれをみればあはれをみればあはれをみればあはれを

山松

風前落葉 ちりやをみればあはれをみればあはれをみればあはれを  
 寄煙 恋もえぬ煙をみればあはれをみればあはれをみればあはれを  
 山 家 ちりやをみればあはれをみればあはれをみればあはれを  
 廿五日 海 ちりやをみればあはれをみればあはれをみればあはれを

峰 照射 たつ麻の上の早の葉をみればあはれをみればあはれを  
 盧橘風 社より来たちりやのついでに村の風をみればあはれを  
 海路遠 おろし風をみればあはれをみればあはれをみればあはれを  
 月前郭公 <sup>菅原</sup> ちりやをみればあはれをみればあはれをみればあはれを  
 恨身絶恋 下をみればあはれをみればあはれをみればあはれを  
 夕陽映島 ちりやをみればあはれをみればあはれをみればあはれを



草花露 小萩さくさく萩のいろおろるる露のほをさるる  
 夕稻妻 をむらさきむらさきのいろおろるる萩のいろさるる  
 名所海 ちのちの海やうけのまはるる萩のいろさるる  
 海邊萩 萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 月前鹿 ささぎの萩さるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 不逢魚 萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 山家枕 萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 八月十二日海をさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 月前煙 ささぎの萩さるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 関 月 おのろるる萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる

丹鶴

潤 月 月のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 河 月 月のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 原 月 月のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 閑居月 萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 濱 月 月のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 磯 月 月のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 湊 月 月のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 社頭月 萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 月前薄 萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる  
 月前糸 萩のいろさるる萩のいろさるる萩のいろさるる

丹鶴叢書

寄月懷旧 昔ふおひくはなると秋のよ月  
月夜百々の後ふにこそ獨吟よ一はる

初秋月 下萩も初風をすなふおれとて  
月前草む 秋のよきの紅葉もあはれとて  
雨後月 海やまゝの波もあはれとて  
松間月 どのよかたの月もあはれとて  
山家月 どのよかたの月もあはれとて  
月前竹風 月やまゝの風もあはれとて  
野廷月 どのよかたの月もあはれとて  
澤邊月 どのよかたの月もあはれとて

五根

月前す雁 秋のよきの月もあはれとて

浦邊月 どのよかたの月もあはれとて

月照滝を どのよかたの月もあはれとて

杜間月 どのよかたの月もあはれとて

月前秋風 どのよかたの月もあはれとて

江上月 玉津島もあはれとて

月前虫 どのよかたの月もあはれとて

月前鹿 どのよかたの月もあはれとて

旅泊月 どのよかたの月もあはれとて

月前草を どのよかたの月もあはれとて

菊離月 うきさき 露のさき 月のさき 月のさき  
 暮秋曉月 夕秋のさき 夕秋のさき 夕秋のさき 夕秋のさき  
 雲色 霞のさき 霞のさき 霞のさき 霞のさき  
 風色 風のさき 風のさき 風のさき 風のさき  
 雨色 雨のさき 雨のさき 雨のさき 雨のさき  
 草色 草のさき 草のさき 草のさき 草のさき  
 木色 木のさき 木のさき 木のさき 木のさき  
 鳥色 鳥のさき 鳥のさき 鳥のさき 鳥のさき  
 獸色 獣のさき 獣のさき 獣のさき 獣のさき  
 船色 船のさき 船のさき 船のさき 船のさき

子林

琴急 中の急のさき 中の急のさき 中の急のさき 中の急のさき  
 衣急 衣の急のさき 衣の急のさき 衣の急のさき 衣の急のさき  
 九月二日光明寺の十輪院より 神々月ひかり  
 谷紅葉 谷の紅葉のさき 谷の紅葉のさき 谷の紅葉のさき 谷の紅葉のさき  
 暮秋霜 暮秋の霜のさき 暮秋の霜のさき 暮秋の霜のさき 暮秋の霜のさき  
 道祝 道の祝のさき 道の祝のさき 道の祝のさき 道の祝のさき  
 山路 山路のさき 山路のさき 山路のさき 山路のさき  
 菊 菊のさき 菊のさき 菊のさき 菊のさき  
 侍 侍のさき 侍のさき 侍のさき 侍のさき  
 海上眺望 海上の眺望のさき 海上の眺望のさき 海上の眺望のさき 海上の眺望のさき  
 九月九日海平より 月夜のさき 月夜のさき

判老飛鳥井宗雅

秋月冷 秋の月もまをまの神もあまの神も  
 山紅葉 むらさきの葉もかきくも  
 田家鳥 野田の鳥もかきくも

九月まはるははるの神もあまの神も

かきくもかきくもかきくも

かきくもかきくもかきくも

かきくもかきくもかきくも

かきくもかきくもかきくも

かきくもかきくもかきくも

千雀

かきくも

かきくもかきくもかきくも

かきくもかきくもかきくも

かきくもかきくもかきくも

十月十日の道の歌をばかきくもかきくも

法樂もかきくもかきくも

山初冬おとふあまの神の神もあまの神も  
 曉冬月 かきくもかきくもかきくも  
 爰約急 ぼろの急もかきくもかきくも  
 山中瀧 そとれたる水は神の神もあまの神も

丹鳥集



室時雨をみく人の侍をくみ秋風ふきもりな夜をよきくもむむ  
湖水眺をたきくはらちをゆきし幸時やねむむくりのけを信り  
回くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
中一三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

後朝顯志 ねむりのけをゆきし幸時やねむむくりのけを信り  
十一月四日海京寺まきかきなきくくくくくくくくくくくくく  
音寺くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

嶺上初雪 ぐくぐくぐくぐくぐくぐくぐくぐくぐくぐくぐくぐ  
欲別色 みくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
子林

旅行友 ぎくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
回中旬のころ南都成就院法橋清賢ともあいく  
泊瀬寺一七日まきかきなきくくくくくくくくくくくくく  
くく法樂中本くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

冬 雨 夕時くくくゆきくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
冬 川 袖ねむくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
冬 木 ぎくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
冬 鳥 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

冬 衣 冬 衣 冬 衣 冬 衣 冬 衣 冬 衣 冬 衣 冬 衣 冬 衣  
 旅 宿 旅 宿 旅 宿 旅 宿 旅 宿 旅 宿 旅 宿 旅 宿 旅 宿  
 古 寺 古 寺 古 寺 古 寺 古 寺 古 寺 古 寺 古 寺 古 寺 古 寺  
 釋 教 釋 教 釋 教 釋 教 釋 教 釋 教 釋 教 釋 教 釋 教 釋 教

子規

